

## 宮古島初記録となるムラサキサギ繁殖と伊良部島・下地島初記録となる ゴイサギ繁殖の報告

砂川栄喜

〒906-0007, 宮古テレビ株式会社, 沖縄県宮古島市平良字東仲宗根 968-9

### はじめに

宮古諸島におけるムラサキサギ *Ardea purpurea* の繁殖は、2003 年 6 月に池間島で初記録され（宮古新報、2003）（図 A の 1）、池間島では留鳥として生息しているほか、宮古島や伊良部島では不定期で記録されている。また、ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* の繁殖は、2006 年に宮古島で初記録され（砂川、2011）、冬鳥または旅鳥として飛来するほか、一部が留鳥として生息している。今回、ムラサキサギの宮古島での繁殖を初記録したほか、ゴイサギの伊良部島と下地島での繁殖を初記録したので報告する。

### 方法

調査は、2024 年 4 月中旬から 8 月上旬まで実施した。ムラサキサギは、1 週間 2 回の割合で、巣から 50 ㍎ほど離れた場所に自動車を止め、車内から観察した。必要に応じて写真で記録した。ゴイサギの下地島での調査は、2 週間に 1 回の割合で営巣の様子があがえる 100 ㍎ほど離れた場所から観察した。確実な写真記録とコロニー（集団営巣地）の規模確認のため、1 度だけコロニーに接近、状況を撮影後、すぐに離れた。伊良部島での調査は、隣接してエリグロアジサシ *Sterna sumatrana* が営巣していたため、コロニーへは接近せず、50 ㍎ほど離れた場所の自動車内から実施。参考記録として親鳥や巣立ちヒナ

の動き、ヒナの鳴き声などにより営巣を確認した。

### 結果

**ムラサキサギ.** 調査では、2 番の営巣を確認した。営巣場所は、宮古島東部の農業用貯水池のほとり、ゴイサギとコロニーを形成していた。1 巣は見晴らしの良い場所だったため、調査の対象とした。もう 1 巣は、ゴイサギの巣に隣接し、繁殖に悪影響を与えることが予想されたため、巣への親鳥の出入りのみを確認した。調査対象とした巣の営巣木はショウベンノキ *Turpinia ternata* Nakai で 4 月 25 日に抱卵を確認した（図 A の 2）。周囲にはギンゴウカン（ギンネム）*Leucaena leucocephala* (Lam.) de Wit、オオバギ *Macaranga tanarius* (L.) Mull. Arg.、ハチジョウススキ *Miscanthus condensatus* Hack.、ナピアグラス *Pennisetum purpureum* Schumach.、クロツグ *Arenga engleri* Becc.、ハマヌビワ *Ficus virgata* Reinw. ex Blume、ハマサルトリイバラ *Smilax sebeana ryukyuensis* Miq.、クワズイモ *Alocasia odorum* などが密生していた。

5 月 27 日にふ化後数日が経過しているとみられる 2 羽のヒナを確認した。育雛前期は、雌雄どちらかが常に巣に滞在していた（図 A の 3）。雌雄交代の際には、巣に滞在していた個体が、翼を広げて前かがみになりながら

戻って来た個体を出迎えた後、採餌に出かけていた(図Aの4)。戻った個体は、このあと、ヒナに給餌していた。サギの仲間が給餌のために巣に戻るのは、育雛前期では1日1~2回ほどと少ないが、戻った個体は一度にヒナに餌を与え尽くすのではなく、一定時間をあけて給餌していた。雌雄の巣への滞在は、雄が日中、雌が夕方から翌日の午前中だった。交代時間は、餌の獲れ具合に関連していると思われる、その日によって前後していた。巣は直射日光の当たる場所にあったが、日中の陽射しが強いつまみには、親鳥が翼を広げ、ヒナに直射日光が当たるのを避ける行動が見られた(図Aの5)。

ふ化確認後、約1カ月が経過した6月下旬には、雌雄とも巣に滞在せず、給餌のためだけに巣に戻るようになった(図Aの6)。ヒナは直射日光を避けるように、巣に隣接している樹木の陰に潜り込むようになった。7月上旬には、巣から5~6メートルほど離れた場所で過ごすようになり、親が巣に戻ると翼をはばたかせながら枝伝いに巣に戻っていた。ヒナは、7月中旬には巣に戻らなくなった。少しずつ巣への依存度を下げるという形で、どこからが巣立ちなのか、はっきり分からない状態だった。

本種は、八重山諸島の西表島で繁殖が確認されているほか(吉見、1992)、石垣島でも繁殖が確認されている(八重山毎日新聞、2019)。宮古諸島では池間島でのみ確認されていたが、今回の宮古島での確認で、国内での繁殖分布域が拡大したことになる。なお、本種は沖縄県のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

**ゴイサギ.** 調査では、下地島、伊良部島池間添で、各1か所のコロニーを確認した。

下地島のコロニーは、旧伊良部町が過去に観光施設として整備した場所の近くで、ギンゴウカンが優占し、オオバギ、セイバンナスビ *Solanum macaonense* が点在していた。地表付近では、アメリカスズメウリ *Melothria pendula* が生えていた。6月上旬、巣立ち前のヒナの鳴き声と付近への成鳥の出入りを確認した。7月上旬にも、最初にヒナの鳴き声が聞こえた場所から10メートルほど離れた場所で巣立ち前のヒナの鳴き声が聞こえたため、営巣地があると判断し調査を続けた。調査はコロニーがあると見られる場所から直線距離で100メートルほど離れた場所から行ない、ヒナの鳴き声と成鳥の動きを観察した。7月28日に、巣の状況確認のため、1度だけコロニーへの接近を図った。確認した巣は7巣で、営巣木は5巣がオオバギ、2巣がギンゴウカンだった(図B)。

伊良部島池間添の繁殖地は、佐良浜漁港に隣接した入江状の場所だった。営巣場所の背面は断崖で、オオハマボウ *Talipariti tiliaceum*、アダン *Pandanus odoratissimus*、イボタクサギ *Clerodendrum inerme*(L.) Gaertn.、ガジュマル *Ficus microcarpa*、ハマイヌビワ *Ficus virgata* が生えていた。ゴイサギのコロニーがあるとみられる場所のすぐ近くに点在する岩礁で、絶滅危惧Ⅱ類(環境省、沖縄県)に指定されているエリグロアジサンがコロニーを形成していたため、繁殖への悪影響を避けるため、観察は50メートルほど離れた道路脇の自動車内から行なった。巣立ち前のヒナの鳴き声や巣立ちヒナが複数確認されたほか、成鳥の出入りする様子が確認された。

写真



図 A の 1 宮古諸島でのムラサキサギ繁殖初記録を報じる新聞記事



図 A の 2 抱卵中の雄



図 A の 3 育雛前半、雌雄は交代で巣に滞在していた（写真は雄）



図Aの4 巣に戻った雄（左）を迎える雌



図Aの5 直射日光からヒナを守るように翼を広げる雌



図Aの6 巣に戻り、ヒナに餌を与える雌



図B 巣立ち前のゴイサギのヒナ

## 引用文献

日本鳥類目録編集委員会 (2024) 日本鳥類目録・改訂第8版. 日本鳥学会

日本鳥類目録編集委員会 (2012) 日本鳥類目録・改訂第7版. 日本鳥学会

Mark Brazil (2008). Birds of East Asia・China, Taiwan, Korea, Japan, and Russia. PRINETON UNIVERSITY PRESS PRINETON AND OXFORD

大西敏一 (2000). 日本の野鳥 590. 平凡社

叶内拓哉 安部直哉 上田秀雄 (2014) 山と溪谷社

沖縄野鳥研究会編 (2010) 改定版・沖縄の野鳥. 新星出版

砂川栄喜 (2001) きらめく生命 宮古諸島の野鳥. ニライ社

砂川栄喜(2011). 沖縄 宮古の野鳥 亜熱帯の水辺、山野の鳥 ボーダーインク

吉見光治(1992). 亜熱帯 豊かな森の仲間たち ニライ社

宮古新報 (2003. 6. 14) 宮古新報社

八重山毎日新聞 (2019. 8. 13) 八重山毎日新聞社